



て・く・む (神はいつも私のそばに)

†聖書の言葉†

主は、人間を土から造られ、再び、土に帰される。

²主は、彼らに一定の寿命を与え、地上のものを治める権能を授けられた。

シラ書 17.1-2

早春の兆しを感じるこの頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。年長さん達は卒園・進学喜びを、在園児さん達は進級の喜びを、感じながら、日々楽しく過ごしています。先日の聖堂朝礼で祭壇の後ろにある金属の箱を見て、年長さんが、これは何ときいてきました。3月の聖堂朝礼で説明するねと約束しています。いろいろなことに興味を示して聞いてくる子ども達、これから楽しみですね。私も話をするのが、とても楽しみです。かけがえない子ども達の心と体の成長を、これからも祈りのうちに見守って行きたいと思います。

カトリックにおいて、3月5日(水)は灰の水曜日といわれ、復活祭を迎える準備期間に入ります。灰の意味は、上述のシラ書にもありますように、土から出て土に帰っていく私たちが、復活されたイエスキリストの姿にあやかり、棕櫚やオリーブを燃やした灰を神父様から額にかけてもらいます。その日から復活祭までの間を四旬節と言い、春分の日以降の最初の満月の日の次の日曜日が復活の主日(復活祭)となります。今年は4月20日(日)が復活祭です。日曜日を除いて灰の水曜日から40日目になります。信者たちは四旬節の間、心静かに祈りながら復活の日を待ちます。

園長